

第3回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

- ◇日時：2025年7月1日（火）19時～21時
- ◇方法：Zoomによるオンライン形式
- ◇参加者：40名

◇内容：実践事例の ESD 授業分析 生駒市立俵口小学校 西田有壺先生
 「誰かのために行動する」～地産地消プロジェクト～（小学校5年生：社会・総合）

【事例紹介】

学年目標「誰かのために行動する 一歩前に踏み出そう」を設定した
 縦割り活動やオリエンテーリング集会の運営など、「誰かのための」体験をした上で、2学期以降は
 地域の中で「誰かのための」行動を起こすことを目指した

「生駒 地産地消プロジェクト」 社会科の学習を出発点として、総合的な学習の時間を中心に
 （社会科）食料生産にかかわる人たちは、食料生産に関わる問題解決のためにどんな取り組みを？



（総合）生駒市で耕作放棄地の問題を自分事として考えられるように
 生駒市遊休地活用事業・・・現在市内で160ヶ所の耕作放棄地を無償で貸し出す事業
 学級の児童の保護者が参加していた・・・黒田さん（「究極の地産地消」を行う人）

社会科「これからの食料生産」学習後の児童の反応

- 田んぼや畑がどんどん減っていく。
- これは「日本の危機」ではないか？
- 畑も農家さんもいなくなったら日本の食べ物食べられないのが不安です。
- もしこの状況で輸入がストップしたら・・・
- このまま畑や田が減っていくと考えると、こわい。
- 農家はあまりお金にならなさそうだなと思った。
- 農家一人ひとりが取り組むべき問題だと思った。
- 50年後とかやばそう。でも俺生きてへんしな。。。
- なんで畑をほったらかしにするんだろうと思った。
- ほったらかしになるなら土地を売ったら良いのになあ。

地産地消のよさに気付く
 しかし、頭での理解でしかない



黒田さんとの出会い

- ・生駒市の農業体験がきっかけ
- ・苦労は多いけど採れたてはおいしい
- ・草刈りに多くの時間を費やす
- ・無償で遊休地を借りることができる

（話し合い）

遊休地を借りて耕作することのメリット
 無償で貸し出す生駒市のメリット

生駒市農林課の方にインタビュー

- ・耕作放棄地ではアライグマなどの外来種が見つかったりする
- ・農業にチャレンジしてみようかという人が増えるとうれしい

黒田さん側（耕作放棄地を借りる）の良さ

- 新鮮な野菜を食べられる
- 身近な人にあげることと交流が深まる。
- みんなが喜んでくれる。
- 土地を無料で借りられる。
- 形が面白い野菜も食べられる。
- 季節によって違う野菜を食べられる。
- 農業を使わずに済む。

生駒市が耕作放棄地を無料で貸し出すことにどんなメリットがある？

- 使いうのない土地を良い使い方をしてもらえ
- 生駒市で地産地消ができる。
- 借主が整備をしてくれる。
- 農家になる人が出るかもしれない。
- 貸し出すことで耕作放棄地が悪化しない。
- 耕作放棄地について知ってもらえる。

「地産地消を広げるために、どんな取り組みをすればいいだろう？」

学校に畑をつくる ポスターをつくる 「俵口地産地消の日」をつくる イベントで野菜を売る

→ 校内の耕作放棄地を畑にして野菜を育てる 「俵口ファーム」

休み時間を返上して畑を耕し、冬野菜を植え付け

しかし、土壌がやせていて成長しない 動物に苗を食べられる

イベントでの販売も計画していたが断念

ここまでの成果として、

地産地消を自分事として地球環境や地域の視点から捉え、日常の買い物に生かそうとする姿勢

その一方で、

「地産地消プロジェクト」として取り組んだ「俵口ファーム」の活動の目的が釈然としていない

「誰かのために」という視点での活動にはなっていない

→ 耕作放棄地を借りる人、貸し出す人に加え、生産者の視点で考えたり話を聞いたりする必要

「俵口ファーム」をつくることがどんなことにつながるのか、立ち止まって考える必要

どうすれば黒田さんや市役所の人のように、周りのための活動になるのか考える必要

このままでは終われない、子どもの内面から「やりたい」と思える活動をさせたい

対馬の海ごみと向き合う生駒のプラスチック製造企業との出会い（すでに計画があった）

「誰かにために行動する」集大成として

対馬の海洋プラスチックを回収して約10%を再利用して製品を作っている

GTから…プラスチックメーカーとしての責任 「何とかしたい」 自分たちの代では終わらない

→ 対馬の人のために行動していることがすごい

自分も誰かのために行動したい 100年後のごみをなくすためにごみ拾いをしたい

→ 通学路や校区内のごみ拾いを実践

「誰かのためにやるのは自分のためじゃないけど、自分のためにも関わっている気がした」

「誰かのためにやるって、カッコイイ」「知っているより、やったという方がいい」

「行動化」の難しさを感じ、模索した1年間だった

子どもの内面に訴えかける「ひと・もの・こと」を追求していきたい

【意見交流から】

○畑で失敗したというところで終わるのではなく、なぜ失敗したのかを農家の人に聞いてみたりしてもよかったのでは。失敗したからこそ学べることが多くあったように感じた。

○「誰かのために行動する」という学年目標がESDにつながっていていい。

○畑をやってみて子どもの変容は？

→ 冬野菜を一度失敗して、その後2月にもう一度植えて5月に少し収穫できた。その中で、農家の人の苦労や育てることの難しさは感じた。（そこがねらいだったわけではない）

ごみ拾いをやって、自分で行動することの気持ちよさや、行動することの価値に気付けた。

○単元構想図は教科を超えて作成してもいいものか？

→ むしろその方がより実践的で、ESDとしても価値のあるものになるのではないか。

- 「誰かのためにやったときが充実していた」という子どもの思いを、深く掘り下げてみると違った展開があったかも。
- 「誰かのためにやったことが自分のためになっている」と感じたというところが大事ではないか。
- 学年目標が明確にあるだけに、授業がブレていない。
- 「見えない誰かのために」行動することを目指している。それはプラスチック企業の方と会うことが決まっていたから。相手が見えないと、子どもはなかなか行動できない。
- 行動化にたどり着くまでにどう展開するのか、難しいし奥が深いなあと感じた。

【ESD としての分析】 育てたい資質・能力、価値観にしぼって

(資質・能力)

- ・他者と協力する態度・・・「誰かのために行動する」のは一人ではなかなかできない
- ・進んで参加する態度・・・自分から「誰かのために行動する」
- ・未来像を予測して・・・このままでは私たちの「食べること」自体が危ない
- ・つながりを尊重する態度・・・いろんな人との出会い、自然環境と自分とのつながり
- ・システムズシンキング・・・耕作放棄地を通して地域の様々な課題に気付く

(価値観)

- ・幸福感・・・誰かのための行動は自分のための行動である
- ・世代間の公正・・・将来のためには耕作放棄地をそのままにしてはいけない
- ・生態系・・・耕作放棄地になっては生態系が大きく崩れる
- ・人権・文化の尊重・・・農業があるということはそこに文化があるということ

(実践者から)

構想段階では、システムズシンキング、世代間の公正を重要視していた。

実践を終えてみると、進んで参加する態度、幸福感を大切にするという価値観が圧倒的だったかも。